



園だより

令和5年4月27日
佛教大学附属こども園

「仏教保育5月のねらい」

持戒和合



「個性化と社会化」

園長 佐藤和順

新年度が始まり、1ヶ月が経ちました。新しいクラスや友だち、先生にも慣れ、関わりも深まってきました。毎年のことですが子どもの柔軟性には驚かされます。認定こども園移行で、私たち大人がこれまでとは違う状況に戸惑っている現状。子どもから学ぶことがたくさんあると感じています。

さて今月の保育目標は「持戒和合（じかいわごう）決まりを守り集団生活をしよう」です。「持戒」とは、決まりを守る、我慢をするということです。「和合」とは、和やかに力を合わせ、協力するということです。約束を守ることは社会生活の第一歩であり、それをもとにして集団の秩序が保たれます。社会生活の第一歩である園生活を楽しいものにするために必要なことを考えようということです。

幼児教育・保育の役割は大きく二つあるといわれています。一つは社会化です。子どもがこの先、生きていく社会のルールや価値観を伝えて、その社会での生活を可能にするという役割です。もう一つは個性化です。その子どもが自分らしく成長できるようにする、個性をしっかり伸ばすという役割です。

子どもにとって初めての「社会生活の場」となる園生活には、約束や決まりがあります。自分の好き勝手にしては園生活が成り立ちません。約束や決まりを身につけるためには、まずは、簡単な決まりを守り、ほめてもらう経験が大切です。言葉で決まりを伝える事は簡単ですが、経験が無ければ理解することは難しく、日々の遊びの中で繰り返し大切さを実感することで決まりを身につけていくのです。成功体験が、約束や決まりを守ることの嬉しさにつながります。また、家庭では、保護者が社会の決まりを守る姿勢、他人に迷惑をかけないように節度ある態度を示していくことでお手本となります。その次に、なぜ決まりを守らなければならないのかを子ども自身が考え、判断することが求められる段階に移行するのです。

社会化と個性化は相反するものではありません。社会のルールの中で、その子どもらしさをしっかりと伸ばすようにすることが大切です。現在、自己中心的な考えで起きているニュース等を目にします。しっかりと「持戒和合」を伝えていきたいと思えます。

